

目黒区の障害者福祉の牽引役として、一層の飛躍を期待します

目黒区議会議長 伊藤よしあき



東横線学芸大学駅の商店街に、「しいの実社」という大きな看板を掲げたパン屋さんがあります。ガラス越しにさまざまな種類の美味しそうなパンや焼き菓子がずらりと並んでいて、時折私も利用しています。

「しいの実社」は、社会福祉法人もえぎの会が、地域における障害者就労の実践の場として運営するパンと手作り小物のお店です。最近では、環境保護・途上国支援を目指す目黒区内の会社と共同で新製品を企画するなど、障害者福祉の一步先に行く先進的な事業を展開されています。

もえぎの会のホームページを拝見すると、トップ画面で社員（同会では、利用者をこう呼びます）の皆さんの働く姿を大きく紹介し、同時に「しいの実社」の理念とも言うべき、次の3つの言葉が掲げられています。

- 生まれ育った目黒の地で、障害者が自立した生活を営むことを支援します。
- しいの実社は、仕事を通じて能力を発揮し、生きがいを感じていただきます。
- しいの実社の製品は、心をこめていねいにつくり、お客様に喜んでいただきます。

画面に映る社員の皆さんの表情もいきいきとして、「自助自立」の精神の下で、30年以上にわたり、障害者への支援活動を続けてこられたもえぎの会の真髓が凝縮されているように感じます。

理事長はじめ、スタッフ・後援会・利用者の皆様が、このように常に前向きな姿勢で活動されており、目黒区の障害者福祉の発展に大きく貢献していただき、心より感謝申し上げます。

2006年に施行された障害者自立支援法、さらに今年6月に可決された障害者総合支援法と、障害者福祉を取り巻く環境は変遷しています。

しかし、法律や制度が変わっても、障害を持つ方が自立した生活、充実した人生を送るためには、就労の場、生活の場、支援の手、地域の方々の理解が不可欠です。もえぎの会をはじめとする事業者、障害者団体、地域住民、関係機関等と行政がこれまで以上に連携を強めながら、障害者福祉のあるべき姿を目指し、長期的視野に立ち、協働して支援に取り組むことが大切です。

依然として厳しい経済状況が続き、さまざまな課題があります。もえぎの会には目黒区の障害福祉の牽引役として、また行政の大切なパートナーとして今後ますますのご活躍を期待しております。

しいの実祭のお知らせとお願い

今年は、11月23日(金)開催予定です。恒例の後援会のバザーも企画していますので、献品に、ご協力をお願いいたします。

11月16日(金)までに、ご連絡をお願いします。ただし、下記のものはお預かりできませんのでご了承ください。

- ・ 賞味期限の切れた食品
- ・ 古本、日本人形の類、不揃いの食器、大量の古着

(献品の連絡先： しいの実社 ☎03-5724-7153 岡田)

沢山の方に参加して頂き、感謝の気持ちを表すような企画を進めています。来た方が笑顔になれる…心温まるお祭を目指します。

施設のスペースが限られて狭いので、お隣の白川電機製作所さん、平研磨工業所さん、五十嵐電機製作所さんの場所をお借りして、ますます盛り上げるように、みんなで張り切って準備しています。



昨年の様子



もえぎの会事業報告会、後援会総会 開催

7月21日(土)に目黒区合同庁舎大会議室において、もえぎの会事業報告会および後援会総会を開催しました。例年より早く猛暑が始まり、当日も暑さが予想されましたが、多少の雨もあり、いくらか過ごしやすい日となりました。

昨年度は、「活動30周年、法人10周年記念式典」で、特別の企画でしたが、今年は、例年どおりで約130名の方に出席していただきました。最初は後援会の総会で、役員改選の年に当たり、沼野嗣男会長をはじめ、役員の方は再任となり、改めて活発に活動していただきます。併せて、事業報告、事業計画を承認していただき、改めて、もえぎの会への支援、地域での啓発活動をしていただくことになりました。



引き続き、法人事業報告会を行い、野村理事長の挨拶、来賓を代表して青木英二区長と鈴木隆道都議会議員に祝辞をいただきました。その後、パワーポイントを使用して、もえぎの会の活動報告を行い、10年経過しての利用者数、収入などの推移や写真を交えて活動の様子を伝えました。最後に、昨年度で10周年の節目を迎え、今年度は、法人として「新たな飛躍」をテーマにして次のステップに踏み出すことを報告しました。引き続き、伊藤よしあき目黒区議会議員長の区議会議員紹介、乾杯のご発声により、懇親会が始まりました。料理は、しいの実社がランチでお世話になっていて、後援会会員の葉隠勇進に提供していただきました。普段お話しできない、来賓の方や後援会会員、また、しいの実社の家族や利用者、スタッフなど、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で懇談、交流していただきました。後半には、コスモスカイオーケストラに演奏をしていただき、利用者の方も実際に楽器をいじったり、歌ったりして楽しい時間となりました。締めは、しいの実社に通っている社員と今年入社したスタッフの挨拶と締めめでお開きとなりました。

新たな飛躍に向け、法人、家族、スタッフはじめ、行政や地域の方々など、関係するすべての方が満足できるように連携し、協力していくことを改めて認識する会となりました。



演奏を楽しむ



料理を楽しむ



社員による締め

秋冬のイベント販売スケジュール

10月20日(土)	地域福祉のつどい	中目黒GT
10月27日(土)	えのき祭	大橋えのき園
10月28日(日)	中目黒公園祭	中目黒公園
11月17日(土)	本町まつり	目黒本町工房
11月24日(土)	ふれあいつりオ 吉田恭子と仲間たち	パーシモンホール
12月 9日(日)	障害者の日	パーシモンホール

しいの実社 宿泊研修旅行

9月6日(木)、7日(金)に宿泊旅行に行ってきました。行先は、10年前にも1度訪れたことのある石和温泉でした。しいの実社は、日中活動の場所が3か所、生活の場所が2か所と分かれており、全員が顔を合わせることが少ないため、スタッフ、利用者全員で行き、総勢72名となりました。

前日の予報では、雨マークが付き、心配でしたが、1日目の観光が終わり、宿に向かうバスの中だけ降られて済み、それ以外は、暑い位で、皆さんの普段の行いの良さを改めて感じました。

1日目は、全員で河口湖で食事をしてから、忍野八海、富士山レーダー館などを散策、見学し、宿へ。2日目は、見学コース(ワイン工場、桔梗屋さん)、笛吹川フルーツパーク散策コース、ハイジの村体験コースの3グループに分かれました。今回の旅の心残りは、2日間とも雲がかかり、富士山がきれいに見えなかったことです。

いろいろありましたが、今回も2人のボランティアさんに参加していただき旅行を支えて頂き、後援会からは、例年通り、宿泊研修旅行の補助をして頂き、利用者の人たちにとって貴重な体験と楽しい思い出となりました。ありがとうございました。



フルーツパーク



ワイン工場



ハイジの村



全員集合!!

地域との交流

現在のしいの実社には、ワンボックス車が1台、軽自動車が2台あります。車には、しいの実社の名前とフレンズマーク(しいの実社のロゴ)が描かれ、毎日、走っています。直営ショップをはじめ、区内の保育園、目黒本町福祉工房併設の「さんまるしえ」さんへ、しいの実社製品を配達しています。

しいの実社の製品を販売して頂けるお店も増えています。学芸大学の「ロージー」さんや「西郷歯科」さんをはじめ、最近では、フェアトレードの会社との連携も増えています。三田にある「第3世界ショップ」さんにはクラフトや織物の製品を置いていただき、自由が丘の「ピープルツリー」さんとは、コラボしたクッキーを販売していただいています。

配達や販売を通して、交流の機会を増やし、買っていただくことで、売上を上げることができます。地域の理解が進み、地域に潤いをもたらすこととなりますので、お互いに助け合い、地域で生活するために、積極的に地域に出ていきたいと考えています。



ピープルツリーとのコラボクッキー

有限会社 東京ガーデン

目黒区下目黒6-1-27 アメニティハウス Tel: 03-3710-1187

潤いのあるお店の外観

目黒通りの油面交差点近く、四季折々の花が咲き揃う東京ガーデン生花店の野口登美代店長にお話をうかがいました。

武士であった曾祖父が、明治時代に造園業を始め、100人の職人を抱え、サイドカーに乗るハイカラなお父様が「東京ガーデン」と名付けられたそうです。そのお父様が昭和23年に交通事故死、幼子を抱えた若いお母様は、やむなく休業されました。その後、野口さんは銀座でOLをされましたが、農大の造園科で学んだ弟さんが花屋をやりたい気持ちが強く、二人で縁日屋から始められ、目黒不動などで観葉植物、花苗をドアが外れそうな中古トラックで売り歩かれました。

そして、この地で東京ガーデンという名前を始めたのが45年前で、当初は花専用の冷蔵庫も買えず、知名度もないため、碑文谷や都立大学に花を売りに行かれました。「我慢の連続でした。」とおっしゃいましたが、25年前にこのビルになり、今日に至っておられます。野口さんと弟さん夫妻と、テレビ局や芸能関係にご最頂の多い別府さんがスタッフです。気を使うのは、年齢、職種、イベントの内容、会期、好みなどで花や形態が違うので、TPOの把握とお客様の希望をよく聞いて差し上げることとおっしゃいます。「何の商売も気を抜けません。特にしいの実社の製品は口に入るものもありますから大変ですね。」とおっしゃっていただきました。ご近所も変わり、お店が減って寂しい反面、古い家を改修した家具屋や新しい住宅ができ、人も増えています。この土地を守ってくれた曾祖父母に感謝し、地域と共に継続する花屋でいたい、華やかな花々の中であって、凜とした花一輪の野口店長でした。



野口店長と別府さん

目黒区下目黒2-13-10 RKビル6F

Tel: 03-6417-9800

URL: <http://www.murayama-denki.co.jp>

村山電機製作所

村山電機製作所は、昭和14年に電気計測器製造を目的として、目黒区五本木にて創業。現在3代目の村山潤社長ですが、今回は2代目の村山知会長をこの7月に移った下目黒の新本社にお訪ねしました。

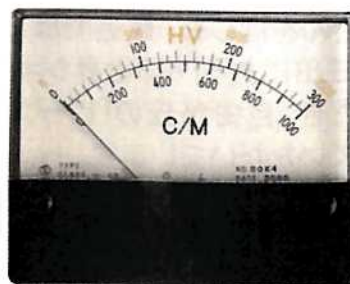
会長は、現在、創業以来の社史をまとめているとのことで、年号を追って会社の歴史を、目黒の状況や社会の情勢と併せて、穏やかな口調でわかりやすく説明してくださいました。

昭和27年に電気水温計の開発に成功。魚と海水温度の相関が強いため、水温を正確に計測出来るようになって漁業の飛躍的な生産性向上に貢献し、水産業界に普及しました。これを本業として更には時代の要望に沿って船舶用エンジン、通信機器など産業機器に使う部品としての計測器の製造へと広がりました。「フレームタイプメーター」(額縁内の針が振れて数値を示すもの)がその1例で、3・11以後急速に需要が増えた放射能測定器にも使われていて、TVの報道番組の画面で見ても「自社のメーターだとすぐわかりますよ」との事。一般にはなじみが薄くても「部品として提供させて頂く形で世の中のお役に立っている企業だとの自負があります。」と力強いお言葉です。



村山知会長

趣味は学生の頃からの映画鑑賞。自称、映画大好き人間、の村山会長の所蔵DVDは西部劇やミュージカルなどを中心に700枚以上とはびっくりです。又、お住まいの町田市では老人ホームの建設支援運動など福祉活動にも積極的に参加されています。お近くですのでは是非しいの実社にもお出かけください。お待ちしております。



アナログ・メーター

都立大学駅の緑道沿いに、コンクリート建造物の補修、改修、耐震、補強事業のゼネラルボンド株式会社 三代目後藤栄太社長をお訪ねしました。

昭和33年3月にお父様が接着剤メーカーとしてスタートされました。東京オリンピックに象徴される高度成長期の建物、道路など社会資本が整備されていく時代であり、国産第1号となる急結止水セメントやエポキシ接着剤などを開発し、自社で製造販売されました。創業10年くらいから自社製品を使った防水・止水工事を始め、その後、建物のひび割れや外壁の浮き等の補修工事に着手し、昭和53年の宮城沖地震を契機として耐震補強事業に参入します。当初は出来たものが老朽化するという概念がまだなく、新築時の施工者の責任とされ、弊社の事業は裏方の仕事であったらうと思います。後藤社長は、大学卒業と同時に入社されました。当時からお父様は「古くなる建物は将来に渡り増加し続ける。わが社が対象とするのは、新築でなく、既存建造物の維持保全と改修事業なのだ」とおっしゃっていたそうです。お父様が平成2年に亡くなり、現会長のお母様が10年間社長を務められました。その間に製造部門を閉鎖し、平成12年7月から後藤栄太社長が就任され、現在に至っております。

昨今は、社会基盤がますます維持管理にシフトしており、少子高齢化等による技術・技能の伝承が急務で、17名の社員のうち、9名が3年未満の新卒者で、男女問わず、既に現場で活躍しています。

プライベートでは第1回から東京マラソンに参加され、今年はなんと3時間21分で完走されました。ウルトラマラソンにも挑戦され、そのバイタリティには脱帽です。しいの実社については「周囲にもっともっと、名前や内容を知ってもらえると良いですね。障害を持つ人にも健常の人にも言えると思いますが、組織は人の集まり

ですので、目的と自分にできることは何かを考え活躍してほしいと思います。障害者の方は健常者では気づかない、心の目を持っている方が多いと思います。」とお話くださいました。

会社の外観



後藤栄太 社長



新規後援会員をご紹介ください

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

12名になりました！

世話人 長谷茂雄

8月で沙羅の家は開設から6年が経過しました。昨年には向原(目黒本町6丁目)にユニットが増設され、開設当初4名からスタートした沙羅の家ですが、利用者の数は12名となりました。入居1年未満の方もまだ多いですが、最近では彼らのしいの実社や職場では見ることもないようなリラックスした表情を沙羅の家で見ることも増えてきました。

ここまで運営できたことは、利用者さん自身の頑張りに加えご家族や地域の方々のご協力のおかげだと思っておりますので、これからも利用者の方が安心して安定した生活ができるように努めていきたいと思っております。



向原にも沙羅の花
が咲きました



向原の近況



碑文谷例大祭 南一丁目町会、向原西町会、清水町会

9月15日に毎年恒例になりました碑文谷例大祭の町内神輿に参加してきました。今年は南一丁目、向原西の各町会の御神輿に利用者の方が2名ずつ参加しました。併せて、しいの実社の地元である清水町会にも、利用者ともどもご挨拶に伺いました。

御神輿初参加の方がいましたが、その迫りに圧倒されながらも、見慣れた町のいつものとは違った雰囲気を感じたり、八幡様の屋台で美味しいものをいただいたりとお祭りを楽しむことができました。地域の方から声をかけていただくことも増えており、少しずつ地域に溶け込んできているという実感を感じました。

南一丁目
いざ出陣！



暑さに負けずワッショイ、ワッショイ！



向原の利用者とスタッフ

楽しんで
参加



編集後記

猛暑から急に秋がやってきました。皆様体調を崩されたりしていませんか？しいの実社ではこれからのしいの実祭をはじめイベントの多い季節となります。ぜひ遊びにいらしてください。(岡田)

発行：社会福祉法人もえぎの会

住所：目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)電話：03-5724-7153

e-mail：shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

